

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。

- (1) 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
- (2) 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
- (3) 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
- (4) 多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒の基礎・基本となる学力の定着ならびに「学ぶ意欲」や、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育成する。

ア 授業規律の徹底ならびに共通履修科目の指導をとおして基礎・基本となる学力の充実を図る。その際、授業ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習の習慣や家庭学習の定着などについてもきめ細かい指導を行う。

イ 生徒の主体的な学習態度を育成するため現状を把握し、「考える、まとめる、発表する」等の力を高める授業を実施する。

ウ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に沿った教育課程を実施する中で、選択授業の充実を図り、自ら学び考える力や学ぶ姿勢を育成する。また、発展的学習にも力を注ぎ、高い学力の育成により関西中堅私立大学以上への受験者合格率 40%以上をめざす。

エ 授業アンケートや教員相互の授業参観等を通して授業改善に努めるとともに、分掌、学年、教科等が一体となって学力向上の取組みを推進する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用し、生徒の学力の定着と学ぶ意欲の向上をめざす。

※学校教育自己診断の「授業満足度」の肯定的回答率（平成 27 年度平均 63%）を毎年 4%以上引き上げ、平成 30 年度に 75%をめざす。

※学校教育自己診断の「授業で発表する機会がある」の肯定的回答率（平成 27 年度平均 42%）を毎年 4%以上引き上げ、平成 30 年度に 55%をめざす。

- (2) 英語のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、英語の四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上を図る授業を実施する。

ア コミュニケーションツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。

イ 国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通じて英語運用能力の向上をめざす。

2 キャリア発達の支援

- (1) 卒業までの教育活動全般を通して、望ましい職業観、勤労観を育成するため、進路指導部、教務部、学年を中心に各教科とも連携し、3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。

- (2) 同窓生や地域人材との連携や施設を有効活用し、「夢」や「希望」、「志」を持ち、自らの進路実現に努力する生徒を育成する。

- (3) 生徒の主体的学習を推進するため、自習室を整備し、集中して学習できる環境を整備する。また、ホームページ等を活用して進路に関する家庭への連絡や情報を積極的に発信する。

※学校教育自己診断の「進路指導関係項目」の肯定的回答率（平成 27 年度平均 66.9%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 30 年度に 75%をめざす。

3 誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、生徒の自己効力感と人権意識を向上（「自主自律」や「文武両道」の精神を育成）

- (1) 生徒が達成感や成就感を実感できる学校行事や部活動の活性化を通して、生徒の自己効力感を高め、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。

ア 「あいさつ」「服装・頭髪」「時間管理」「集団生活のマナー」等、自律した行動の基礎となる日常生活習慣の確立を図る。

イ 円滑なコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの育成を通して、対人関係能力の向上を図り、クラスづくりや学年づくりを推進する。

その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用する。

※普通科総合選択制アンケートの「プレゼンテーション関係項目」の肯定的回答率（平成 27 年度平均 56.2%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 30 年度に 65%をめざす。

ウ 学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みを充実するとともに、ボランティアなどの地域貢献活動も推進する。

※学校教育自己診断の「行事満足度」の肯定的回答率（平成 27 年度平均 74.5%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 30 年度に 85%をめざす。

※地域清掃活動への参加者数、延べ 500 人以上をめざす。（平成 27 年度 500 人）

エ 生徒の向上心や協調性・協力性等を高めるため、部活動の入部を促進し活性化を図る。

- (2) 他者に対する優しさやちがいを受け入れ、お互いの立場や思いを尊重する心を有し、状況に応じた言動や人権尊重の意識を育成する。

- (3) 誰もが安心して学ぶことのできる学校として健康安全教育を組織的、計画的に実施する。（いじめ等の防止、薬物乱用、防災避難訓練）

4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上

- (1) 改編等をはじめとする教育課題に迅速に対応するため、将来構想検討委員会や分掌、ならびに学年や教科等が連携を図り、生徒にとってよりよい教育活動を推進するとともに、その取組みを分析・評価し、改善につなげる。また、日々の教育活動をホームページ等で積極的に校内外に発信する。

- (2) 「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学選抜」の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立をはじめ、国際交流の取組みを充実する。

- (3) 教職員の人権意識の向上をめざし研修の充実を図るとともに、人権侵害事象の未然防止や関係諸機関と連携した指導体制を確立する。

- (4) 配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導や、保護者や関係諸機関等と連携した組織的な相談体制を確立する。

- (5) ミドルリーダーや若い世代の教員の育成に努める。とりわけ、経験の少ない教員については学校全体で組織的な指導を行う。

- (6) 良好な教育環境の確保に向けて、施設、設備の計画的な改善に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(選択肢は、1＝よくあてはまる、2＝ややあてはまる、3＝あまりあてはまらない、4＝まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答とする)</p> <p>○学校生活への満足度、全体的傾向 ()は前年度、単位%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校に行くのが楽しい」 75 (75) 「施設や設備、道具や器具がこわれたら、すぐに修理、交換してくれる」 61 (61) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 49 (49) ・保護者「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 79 (80) 「教室や廊下等の清掃が行き届いている。」 58 (55) ・教職員「教室や廊下等の清掃等環境整備に努めている」 56 (14) <p>●学校生活への満足度について、生徒・保護者は概ね評価</p> <p>●清掃等の環境整備についての評価が向上。老朽化した施設・設備の改修と併せ、学校全体での計画的な取り組みが必要</p> <p>○保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」 79 (79) 「学校は、保護者の願いに応えている」 70 (73) 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」 65 (68) 「学校のホームページをよく見る」 28 (31) ・教職員「家庭への連絡をきめ細かく行っている」 87 (86) 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 87 (79) <p>●保護者の願いへの対応や家庭連絡についての評価が低下。特に家庭連絡につき、保護者と教職員との認識の差が大きい。</p> <p>●学校のホームページによる保護者向けの情報発信や、生徒状況をしっかり把握したきめ細やかな保護者連絡が必要</p> <p>○学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「授業はわかりやすい」 59 (63) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」 63 (62) 「教え方に工夫をしている先生が多い」 57 (59) 「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」 53 (42) 「授業でコンピュータやプロジェクトを活用している」 45 (34) ・保護者「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」 50 (47) ・教職員「学習内容の分からない生徒について、補習など、適切に指導を行っている」 78 (89) 「学習活動の充実に分掌・教科・学年として工夫した取り組みができています」 59 (54) 「学習指導計画・指導内容について、教科間で話し合う機会がよくある」 67 (46) <p>●授業のわかりやすさについての評価は生徒・保護者で一致せず。</p> <p>●教職員の補習についての評価が低下。一方、話し合いの機会についての評価は向上</p> <p>●生徒にとりわかりやすい授業、生徒が主体的に参加する授業に向け、話し合いの機会を活用し、検討する。</p> <p>●発表の機会、ICT機器の活用についての評価が向上。今後、学校経営推進費による機器等も活用し、取り組みを充実する。</p> <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」 77 (77) 「学校は知りたい情報を適切に知らせてくれている」 65 (64) 「ガイダンスや総合学習、進路HRはエリア選択や進路決定に役立つ」 63 (59) ・保護者「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 76 (73) 「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」 68 (62) ・教職員「興味・関心、適性に応じて選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 65 (64) 「教職員全体で進路指導に取り組む体制が取れている」 45 (49) <p>●生徒・保護者への指導や情報提供についての評価が向上</p> <p>●生徒が主体的に考え、行動するため、進路指導部・教務部・各学年等が連携し、3年間を見とおしたガイダンスや総合的な学習の時間の充実に取り組む。</p> <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校生活についての先生の指導には納得できる」 61 (67) ・保護者「学校の生徒指導方針に共感できる」 66 (70) ・教職員「生徒指導は、生徒・保護者に理解されている」 80 (81) 「教職員は協力して生徒の生活指導に当たっている」 60 (62) <p>●生徒指導についての生徒・保護者の評価が低下。また、教職員との認識に大きな隔りがある。</p> <p>●指導のあり方等について教職員で方針を共有し、学校全体で指導に当る必要がある。</p> <p>●取組みの一層の周知により、生徒の理解を高めるとともに、保護者との協力体制を構築する。</p> <p>○人権尊重の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校では、いじめやセクシャルハラスメントが起こりにくい」 73 (76) 「学校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」 64 (63) 「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 61 (58) 「SNSを適切に使用し、安心して学校生活を送っている」 *新項目 83 ・保護者「学校では、子どもに関するプライバシーが守られている」 83 (84) 「学校は、生徒の生命や人権を大切に教育に取り組んでいる」 74 (76) 「生命を大切に心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 76 (73) 「子どもはSNSを適切に使用し、安心して学校生活を送っている」 *新項目 83 ・教職員「体罰やセクハラ防止等の人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている」 87 (83) 「生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るよう配慮している」 72 (63) 「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全職員で話し合っている」 72 (36) 「本校では、生徒がSNSを適切に使用し、安心して学校生活を送るよう指導している。」 *新項目 67 	<p>第1回(6月10日(水))</p> <p>○朝の挨拶指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、教員が挨拶をして生徒の表情を見る姿勢が、地域からも評価されていく。 <p>○朝のSHRについて *今年度4月から実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導・学習指導上でもきわめて重要。先生方が共通理解したうえで実施するとともに、成果も検証してほしい。 <p>○1年生の「毎日宿題」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検等、大変だと思いが続けてほしい。 <p>○習熟度別授業について *数学で先行実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開方法、考査、評価の方法など検討課題は多い。 ・来年度から国語・英語でも実施するにあたり、先行実施の結果を活かしてほしい。 <p>○「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」について *平成29年度4月から実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化に対応した教育は、学校を変える大きなエネルギーになる。 ・渡日生に対する母語の指導やアイデンティティの保障とともに、渡日生以外の生徒への働きかけも重要 ・授業だけでなく、校内での居場所などについても検討する必要がある。 ・人権教育の中での多文化理解の位置も要検討 ・具体案が打ち出されており、期待している。 <p>○ホームページの充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルされ見やすくなった。 ・保護者、中学校関係者、一般の方々の見やすさも検討してほしい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標、教育方針等を打ち出すとともに、実現に向けて取りくんでほしい。 <p>第2回(11月2日(水))</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> *6限の授業(3クラス)を見学 ・講義形式ではなく生徒とのインターアクション形式の授業で、テンポがよかった。 ・生徒の能力を引き出そうとするなど、先生方の努力・工夫が見られた。 ・(協議委員をしている)この3年間で、学校を変えていこうという先生方の姿勢が授業に表れていた。 ・3年生で進路が決まっている生徒の授業も見学したかった。 ・自信を持って、さらに工夫を重ねながら進めていただきたい。 <p>○習熟度別授業について *数学科より経過報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準」「発展」のうち、「標準」クラスの生徒に『一層力を高めよう』という意識がめばえて成功といえるのではないかと。さらに積極的に学習する意欲ができてほしい。 ・クラスで切磋琢磨して「わかる喜び」が「学ぶ姿勢」につながるようになればいい。 ・何のために習熟度別授業をするのかということについてもあらためて議論してほしい。 <p>○「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒特別選抜」に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> *本校2、3年に在籍する外国にルーツのある生徒へのインタビューDVDを制作し、1年生の総合的な学習の時間において視聴したことを報告のうえ、このDVD視聴 <p>○リーフレットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> *7月に改訂したリーフレットを配付 ・中学生にとって見やすい、楽しそうなリーフレットになっている。 ・中学生・保護者に向けての学校の説明においては、学習面など学校として譲れない部分をおさえ、伝えることが大切 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒案件について報告・説明

- 人権教育に係る取組みの充実により、特に教職員の評価が向上
- 人権教育について教員の共有を図るとともに、生徒の人権意識を高める取組みを一層充実させる。
- 特にSNSについての指導が大きな課題であり、生徒指導の観点からも指導を充実させる必要がある。
- 悩みや相談に乗ってくれる先生への生徒評価は向上。個々の教員の対応だけでなく教育相談体制を整備する。

○学校の方向性

- ・教職員「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 78 (62)
- 「担任会、教科会、各種委員会など、校内の会議では、有効な議論がなされている」 67 (31)
- 「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」 51 (55)
- 「校内研修・学習会は課題に即したテーマで行われ、内容も充実している」 80 (51)
- 「教育活動全般にわたる評価を行ない、次年度の計画に活かしている」 46 (47)

- 教育活動について教職員が話し合う機会や、有効な議論についての評価が大きく向上。研修も高評価
- 教育課題に計画的に取り組むため、情報を共有し、効果的な話し合いと組織間の連携を進める。
- 当初の目的について組織的に分析・評価した結果を学校全体で共有し、次年度に向けて改善を進める。

第3回(1月25日(水))

- 朝のSHR(ショートホームルーム)実施及び遅刻指導について
 - ・朝のSHRと遅刻数との関係について質問あり。
 - ・朝のSHR実施により、1時間めからしっかり授業に取り組む姿勢ができてきているという点で効果があり、次年度も引き続き実施を検討していることを説明
 - ・昨年度より遅刻数が増加。朝のSHR実施に伴い、遅刻判定の時間が8:40から8:30に変更になったことも一因。ただ、遅刻回数が多い生徒への指導は別途検討が必要と説明
 - ・遅刻と判定する時間が変更された点を踏まえた結果の検証が必要である。
 - ・将来社会人になったときのためにも、基本的な生活習慣について粘り強く指導してほしい。
- 携帯電話(特にスマートフォン)について
 - ・本校の指導状況について質問あり。
 - ・授業中の使用禁止(預かり指導)等を実施していることを説明
 - ・保護者向け学校教育自己診断の記述に「子どもがどのように使用しているのかわからない」という内容の意見があったことから、安易な使用により加害・被害者にならないように継続的な指導が必要であることを説明
- 習熟度別少人数授業について
 - ・今年度の数学での先行実施の成果と課題を整理のうえ、次年度以降の国語・英語での効果的な実施につなげていただきたい。
- 学習習慣の確立について
 - ・1年生の毎日課題について、担当の先生にとり負担も多いと思うが、すばらしい取組みである。2年次以降も継続して実施するとともに、他学年にも取組みを広げていただきたい。
- 学校ホームページについて
 - ・中学校では、ホームページを見ている保護者が、生徒と学校行事・部活動について話し合うきっかけになっている。一層の充実をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の定着ならびに学ぶ意欲やコミュニケーション力の育成 ア 授業規律の徹底指導と基礎学力の向上	(1) ア ・全ての授業で、授業開始の挨拶や授業準備などの授業規律の徹底を図る。 ・新入生オリエンテーションや各学年の授業を指導する中で、聴く姿勢や授業ノートの作り方等を指導 ・学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、基礎学力の定着を図るとともに、生徒に自学自習の習慣を育成	(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断の「授業満足度」を4%アップ(H27:63.0%) ・授業アンケート「授業内容について、必要な予習や復習ができています。」「授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる。」平均値を3.0以上(H27:2.96)	(1) ア ・「授業満足度」61.4% (△) ・「予習・復習」「授業に集中」3.04 (◎) *8:30～のSHRで授業規律の徹底を推進 *聴く姿勢や授業ノートの作り方の充実が課題 *視聴覚機材は11月22日に11台の設置が終了。6台追加(1月23日)。2台追加(3月3日) *使用方法説明会を開催(1回) *研究授業のふり返り(11月15日)で授業での活用方法について紹介 活用アイデア交流会(1月24日) *使用述べ授業時間 12月2月:111時間 1月～2月末:127時間 使用教科:地歴・公民、数学、理科、外国語、家庭
	イ 主体的な学習態度を育成	イ ・生徒の主体的な学習を促すため、授業で「考える・まとめる・発表する等」の機会を拡充する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、生徒のコミュニケーション力を育成 ・本校生に対応した指導計画や指導方法の蓄積と効果的な方策を検討する。とりわけ、少人数習熟度別授業(国語、数学、英語)の実施に向けた準備を進めるとともに、数学においては先行実施	イ ・生徒向け学校教育自己診断で「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」を46%以上(H27:42.3%) ・教員向け学校教育授業診断「学習指導計画・指導内容について、教科で話し合う機会がよくある」50%以上(H27:45.7%) ・数学の先行実施における課題を整理	イ ・「考えをまとめ、発表」53.2% (◎) ・「教科で話し合い」66.7% (◎) ・数学Iの授業で2学期から習熟度別少人数授業を開始 中間まとめを第2回学校協議会(11月2日)に発表 (◎) *実施結果及び課題について職員会議で報告し、次年度の実施教科と共有
	ウ 生徒の進路実現に向け、自由選択科目の更なる充実	ウ ・自由選択科目については、生徒実態や進路実現に応じた内容となるよう、教科会、カリキュラム検討会議を中心に検討 ・進路実現に向けて、特に自由選択科目の学習が重要であることを機会があるたびに、生徒に周知 ・補習・講習の年間を通じて、学年、教科を中心に組織的に実施	ウ ・生徒向け学校教育自己診断の「自分の進路に必要な科目が選択できた」70%以上(H27:67.5%) ・四年制大学進学における希望実現80%以上(H27:84.2%) ・学校斡旋就職100%維持	ウ ・「進路に必要な科目選択」70.6% (◎) ・「四年制大学の希望実現」79.0% (△) ・学校斡旋就職*1月18日現在100% (◎) *1年生で4月当初から毎日・週末課題を実施 *1・3年生で考査前、夏季休業中に希望者による自習耐久レースを開始
エ 「授業力」の向上を目的とした授業公開・研究協議会を実施	エ ・授業アンケート結果を教員および教科等にフィードバックし、「振り返りシート」を活用しながら、各教科で年間を通して授業改善に取り組み、その結果を検証する。 ・教員の学ぶ機会を充実するため、授業公開週間の設定を複数回行い、その時々目標設定し研究協議会を実施する。	エ ・生徒向け学校教育自己診断で「教え方に工夫をしている先生が多い」63%以上(H27:59.0%) ・授業公開と研究協議会を2回実施 ・外部講師を招へいし、校内研修会を実施	エ ・「教え方工夫している先生」57.4% (△) ・授業公開・研究協議会を2回実施済 (◎) ・外部講師による研修は実施できず (△) *第1回授業アンケート結果(コメント含む)を教員・教科等にフィードバック *「振り返りシート」の結果についても職員会議等で公表 *「振り返りシート」の提出率の向上が課題 *6月「生徒が主役」のテーマで授業公開と研修、11月「生徒が主役」又は「プロジェクトを活用した授業」授業公開と研修を実施	
2 キャリア発達の支援	(1) 望ましい職業観、勤労観を育成するため、3年間を見通した組織的なキャリア教育を推進	(1) 卒業までの教育活動全般を通して、組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、進路指導部、教務部、学年、教科が連携を図り、3年間を見通した指導計画を作成するとともに、ホームページ等を活用して進路に関する家庭への連絡や情報を積極的に発信する。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関係項目」70%以上(H27:66.9%)	(1) ・「進路関連項目」68.9% (○) *3年間を見とおした指導計画について、前年度作成した計画を見直し、平成29年度入学生に対応した計画を再構築中 *模擬試験情報等につき、既存の携帯連絡網で発信
	(2) 同窓会と連携した講演会等の実施	(2) 同窓会組織である「江風会」と連携し、進路意識を高める取組みを継続・実施	(2) ・「先輩と語ろう会」実施後のアンケートでの肯定的回答率85%以上(H27:85.0%)	(2) ・「先輩と語ろう会」を11月に開催 生徒の感想及び先輩からの聞き取り結果は概ね好評 (○) *現在の方法による実施は今年度までとし、次年度以後の実施については、当該学年と検討予定
	(3) 自習室の整備	(3) 生徒の主体的学習を推進するため、自習室を整備し、集中して学習できる環境を整備	(3) ・自習室の環境整備 ・キャリア支援室の機能の拡充	(3) ・自習室・キャリア支援室ともに教室整備を終了(3月3日) (◎) *次年度の配当により備品を設置

<p>3 誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、生徒の自己効力感と人権意識の向上</p>	<p>(1) 生徒の自己効力感の向上と社会性の育成 ア 基本的生活習慣の確立</p>	<p>(1) ア ・相互の挨拶の徹底指導を図る。 ・「入室カード」による指導が形骸化しないよう、具体的な方策を学校全体で検討</p>	<p>(1) ア ・生徒会主催で「あいさつ運動」を学期に1回実施 ・遅刻総数を年間 2000 件以下に。1 年生は 500 件以下。 (H27: 2353 件) ・教員向け学校教育自己診断の「協力して生徒指導に当たっている」65%以上 (H27: 61.7%) ・朝の SHR 実施を検討</p>	<p>(1) ア ・「あいさつ運動」 学期に1回実施 (◎) ・遅刻総数 2488 件 (△) ・1 年生 771 件 (△) ・「協力して生徒指導」 60.0% (△) ・4 月当初から 8:30～の SHR を開始 (◎) *朝の SHR 実施により、生活習慣の確立に努めている。 *各学年で遅刻の多い生徒の個別指導を実施 *基本的生活習慣指導、全校集会時の頭髪指導を実施しており、今後は学校全体での授業規律・服装指導に取り組む</p>
	<p>イ コミュニケーション力などの対人関係能力を向上</p> <p>ウ 達成感や満足感の伴う取組みの充実</p> <p>エ 部活動の活性化</p>	<p>イ 「総合的な学習の時間」や学年行事、ホームルーム活動等を活用し、生徒一人ひとりに「考える、まとめる、発表する等」の機会を提供し、コミュニケーション力を育成。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用</p> <p>ウ ・学校行事（体育祭、文化祭）、学年行事、HR 活動などの様々な行事を生徒自らが企画、立案し、運営できる力を育成 ・新大阪駅前の清掃活動をはじめ、生徒会や部活動等が中心となり、地域貢献活動を推進</p> <p>エ ・入学直後の部活動紹介等の取組みを工夫するなど、丁寧な入部指導により加入を促進 ・ホームページや広報誌等の活用により活動を周知</p>	<p>イ ・普通科総合選択制アンケート「コミュニケーション力関係項目」59%以上 (H27: 56.2%)</p> <p>ウ ・生徒向け学校教育自己診断の「学校行事満足度」3%アップ (H27: 74.5%) ・参加者数 500 人以上 (H27: 500 人) ・定期的に生徒会主催で学校内外の清掃活動を実施</p> <p>エ ・生徒向け学校教育自己診断の「部活動満足度」65%以上 (H27: 61.8%) ・1 年生加入率 70%以上 (H27: 64.8%)</p>	<p>イ ・「コミュニケーション力」 59.2% (◎) *1 年生は大学訪問の結果（壁新聞）を作成・掲示 *ICT 機器の活用や、各教科・総合的な学習の時間等において、自分の考えをまとめ、発表する機会の充実が課題</p> <p>ウ ・「学校行事満足度」 71.3% (△) ・清掃活動参加 約 300 人 (○) (準備をしていたが雨天で実施不可の日あり) ・清掃活動を 3 学期末に実施予定 (○) *生徒会と各学年が連携を図り、学校行事や部活動等を通して生徒に達成感や成就感を実感させるとともに、行事等を主体的に運営する力を 1 年次から育成 *吹奏楽部・ダンス部等、地域の行事に参加し、地域貢献をする部活動がある。 *生徒会・部活動で随時清掃を実施</p> <p>エ ・「部活動満足度」 62.4% (○) ・1 年生加入率 75.7% (○) *5 月段階で上記を達成したが、その後退部する生徒もいる。 *職員室前に設置した部活動掲示板の一層の活用 *平成 29 年度入学生につき、全生徒の仮入部を実施。特に新 2・3 年生部員等への働きかけが必要</p>
<p>(2) 豊かな人権意識の育成</p>	<p>(2) 集団づくり（クラス、学年）や国際交流事業等を通して、人を思いやり、多様性を認める力を育成</p>	<p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の「学校で、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」66%以上 (H27: 62.7%)</p>	<p>(2) ア ・「人権・命の大切さ」 63.9% (○) *外部講師を招いた人権学習を 1・3 年で実施 *多文化共生に係る総合的な学習の時間を 1 年生で実施</p>	

4 学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上	(1) 分掌・学年等の年間目標設定と評価の達成に向けた組織的な取り組み広報活動の推進	(1) ・迅速に教育課題に対応するため、将来構想委員会や分掌、学年や教科、各委員会等が連携するなど、学校全体でよりよい教育活動を推進 ・学校経営計画をもとに分掌や学年で重点目標や目標設定を行い、中間時点で取り組み状況や点検項目等を学校協議会に報告 ・全面改訂したホームページを活用し、本校の特長や改編（普通科専門コース設置、渡日生の受け入れ等）についての情報発信	(1) ・教員向け学校教育自己診断の「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 65%以上 (H27:61.7%) ・教員向け学校教育自己診断の「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」 60%以上 (H27:56.3%) ・教員向け学校教育自己診断の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」 50%以上 (H27:46.8%) ・保護者向け学校教育自己診断「学校のホームページをよく見る」 35%以上 (H27:30.9%)	(1) ・「日常的な話し合い」 77.5% (◎) ・「分掌・学年連携」 51.3% (△) ・「評価と次年度計画活用」 46.2% (△) ・「ホームページ」 27.8% (△) * 将来構想検討委員会を定例開催（年間29回） * 委員会内に広報・教育課程・多文化共生の3PTを設置し、取組みを推進 * 専門コース設置高校として新パンフレット作成 * 平成29年度29年度の教育課程を大幅改定（週3131単位） * 学外連携を含み、教育課程の内容充実が課題 * 分掌の取組みにつき、第2回学校協議会にて報告 * 運営委員会（10月31日）及びその後の職員会議で、分掌・学年等に、学校経営計画も踏まえて、次年度に向けたふり返りを依頼 * 4月当初によりリニューアルしたホームページを運用
	(2) 渡日生の受け入れに向けた取組みの推進	(2) 渡日生の受け入れに向けて、PTを設置し取組みを推進	(2) ・PTの設置 ・受け入れに向けた計画の策定 ・研修会を各学期に1回実施	(2) ・PTの設置 (◎) ・基本計画の策定 (◎) ・研修会（1学期1回・2学期2回） (◎) * 抽出授業による授業の研究会の立ち上げ * 府内の多文化進路ガイダンスに積極的に参加 * 校内説明会で多文化に係る説明コーナーを設置
	(3) 人権侵害事象の未然防止	(3) 教職員の人権意識の向上に向け職員研修を実施	(3) ・教員向け学校教育自己診断「人権尊重に関して全教職員で話し合っている」42%以上 (H27:37.2%)	・「人権尊重の話し合い」 71.8% (◎) * 生徒理解と生徒への支援に関する教職員研修（7月6日）
	(4) 教育相談体制の確立	(4) 配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有し、生徒の変化に迅速に対応するため、家庭や関係諸機関等（SSWなど）との連携を充実 ・高校生活支援カードの活用の充実	(4) ・生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 62%以上 (H27:58.3%)	・「悩み・相談に乗ってくれる先生」 61.0% (○) * SSWの招致（年10回） * 高校生活支援員会議（対象生徒3人）の他配慮を要する生徒の相談に対応 * 府教育センターからの講師招へいにより不登校支援研修（年4回） * 次年度の教育相談体制につき検討中
	(5) 若い世代の教員の育成	(5) 管理職、首席を中心に、若い世代の教員を育成、指導	(5) ・研修会を各学期に1回実施	・4月に指導方針とオリエンテーション ・1学期（1回）・2学期（1回） ・研究授業に当たり10年経験者からの指導（10月24日） (◎)
	(6) 老朽化した施設・設備の改善	(6) 施設・設備の中期的な改善計画を策定し、環境改善に努める。	(6) ・中期的改善計画の策定	・必要性を判断のうえ、随時改善を実施 (○)